

## 岡部定一郎「福岡城寸描」(37)

### 黒田24騎小傳(10)

#### 三宅 若狭家義

生没年 : 1551～1622年  
位置付 : 大譜代  
禄 高 : 3千600石  
別 名 : 藤十郎、三太夫、家茂

筑前領黒田52万3千石の表玄関に当たる北九州市若松～戸畑の洞海湾の開港口に、今から約400年前に、若松中ノ島城を築き、黒田藩の水軍のすべてを支配した人物である。

播州三宅に生まれる。黒田官兵衛に300石で召し抱えられ、播州の戦いで武功をたてる。その後、山陽路～九州の天正年間の戦いでも名をあげる。

中津入国後は、城井鎮房との戦い等の功績で、1500石を賜る。更に文禄・慶長の役の時も軍功をあげ、関ヶ原の戦いでは如水に従って豊後で戦い活躍する。

筑前入国後は、福岡六端城の一つ若松城の城代として、3千600石を拝領する。また、関東・関西を抑える水軍の長として、1万石を預けられた。

当時の若松城は、洞海湾に架かる若戸大橋の戸畑寄りの橋桁の下に見える岩礁のあたりにあったと言われている。

墓所は戸畑にある。残念ながら、家義の死後、孫の代で家系は断えた。



家 紋



丸に三の字

三宅若狭家義の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)